

# 花粉症治療の未来

秋田大学大学院医学系研究科耳鼻咽喉科・頭頸部外科学 山田武千代

## KEY WORDS

- 花粉症
- 免疫アレルギー疾患
- 10か年戦略
- 本態解明

## はじめに

「免疫アレルギー疾患研究10か年戦略」は「免疫アレルギー疾患領域における研究の現状を正確に把握し、疫学調査、基礎病態解明、治療開発、臨床研究等を長期的かつ戦略的に推進すること」を目的としている。国民の半数が罹患しているアレルギー性鼻炎の患者数は近年増加傾向にあり、国民病といわれるスギ花粉症<sup>1)</sup>は重大な問題となっており、「免疫アレルギー疾患研究10か年戦略」の本態解明と花粉症治療の未来について述べる。

## I. 免疫アレルギー疾患研究10か年戦略

10か年戦略では、①本態解明(先制的医療などを旨とする免疫アレルギーの本態解明に関する基盤研究)、②社会の構築(免疫アレルギー研究の効果的な推進と社会の構築に関する横断研究)、③疾

患特性(ライフステージなど免疫アレルギー疾患の特性に注目した重点研究)の3つの戦略がある(表1)。また、それらの戦略に対して具体的研究事項がそれぞれ4項目挙げられている(表2)。

「アレルギー疾患対策基本法」(平成26年法律第98号)の基本理念としては、(1)正しい診療ガイドラインに従った確かな医療を全国どの地域でも行えるように医療の均てん化を目指し、(2)専門性の高い医師の育成と医療機関の整備、他の医療従事者の教育と育成、相談体制の整備を進め、(3)研究を推進し患者の生活の質の向上を図ることであり、「免疫アレルギー疾患研究10か年戦略」とともに念頭に置く必要がある。

## II. 免疫アレルギー疾患の多様性の理解と層別化に資する基盤研究

本態解明の具体的研究事項(1)のなかでは、2015年のオバマ大統領の一般

Treatment for pollinosis in future.  
Takechiyo Yamada(教授)